



ND BULLETIN

Vol.203

issue
December 2019

[卒業生・在学生対談]

役割分担から育つ リーダーシップ

本学の教育が女性のリーダーシップを育てる

副学長(教学担当) × 大学祭実行委員会



第56回大学祭
「Link～つながるオモイ
つなげるジダイ～」

大学創立70年の歴史

生涯学習センター
「清心フェリーチェ」特別講演
同窓生2名による対談

file.03 役割分担から育つ リーダーシップ

リーダーの役割とは、様々な意見をまとめたり、引き出したりすること。
気遣いできる謙虚さと判断力・決断力の大切さを教えていただきました。

大学祭でリーダーシップを とって見た感想は？

松岡 先日開催した第56回大学祭で、私は実行委員長を務めさせていただきました。リーダーの役割とは、人の上に立って指示をするものだと思っていたのですが、実際は違っていました。パートリーダーのみなさんがしっかりと仕事をしてくださり、当日、私は何もすることがありませんでした。上に立つよりも、横に立つ、後ろに立つぐらいの気持ちで委員長をさせていただき、とてもありがた

かったです。

住江 松岡さんが言ったように、みなさんがとても頑張ってくくださったので、副委員長の私も下から支える感じだったと思います。それぞれのパートリーダーに「何か手伝うことはない？」と声をかけてお手伝いをするが多かったです。

松岡 リーダーとして心がけたことはというと、自分一人ですべてを決めず、必ず誰かに相談すること。委員長を任せられた時に、そう決めていました。

住江 はい。いろいろ相談して進めてくれました。私は、話しやすくすることを心

がけました。実行委員会に入ってくれた1年生にとって初めての活動ですから、相談しやすいように仲良くなろうと思ひ、打ち解けてもらえることを意識しました。

本保 二人の感想は、本学の教育理念をととも反映してくれている発言で、成長を感じて嬉しくなりました。指揮をとる以外にも、どう組織を動かせばスムーズに事が運んでいくのか。それを押し量りながら、声かけをし、みんなが円滑に話せるように潤滑油の働きをしているところが素晴らしいですね。

卒業生

1978年 家政学部(現 人間生活学部) 児童学科 卒業

本保 恭子 (もとやす きょうこ)

卒業後、本学の家政学部(現 人間生活学部)の教員に。人間生活学部助教授などを経て、2008年に人間生活学部教授に。現在、学務部長ならびに2019年より副学長(教学担当)を務める。

【副学長としての活動】

学生たちがスムーズに授業を受け、イキイキとした大学生活を送ることができるように支援を行う教学マネジメントを担当。女性の副学長として大学行政に対して女性目線による発言を行い、期待される役割に応えている。

在学生

日本語日本文学科 2年 **住江 桃華**
食品栄養学科 2年 **松岡 誠子**

【大学祭実行委員会の活動】

第56回大学祭は、平成から令和への改元の年にちなみ、「Link つながるオモイ つなげるジグザイ〜」をテーマに開催。二人は2年生ながら大学祭実行委員会の委員長、副委員長として活躍。

頭も体も五感も全部使って 知識や考え方を身につける

本保 実行委員をする上で、役立った本学の学びはありましたか？

松岡 少人数でのグループ学習が1年次からあり、全員が何か役割を担うので、その経験が大学祭で活かされていると感じました。

住江 グループ学習で学んだ積極性や、自分の役割に責任を持ってやるのが活かされたと思います。大学祭実行委員では初めて会う人や外部から来られる方も多く、知らない方への対応や情報の齟齬を無くすやりとりを頑張ることができました。



大きな達成感があったと語る学生たち。

本保 大学祭を担う人たちが全員女性で、その中で実際に動く人、それをまとめる人、最終的な判断をして一つにまとめ実行につなげる人がいる。演習でのグループ学習がそのまま活かされていますね。本学では、以前から少人数の演習を実施してきましたが、これは今、教育方法としてとても注目されている「アクティブ・ラーニング」に当たり、課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学びのことを言います。問題意識を持って様々な角度から本を読んだり、人の意見を聞いたり、みんなで話し合ったりして、自分の考えを構築する。そして、それをみんなの前でプレゼンテーションして、多くの人の意見を聴いてさらに視野を広げていくというものです。二人は五感も体も全部使って、知識を得たり考えたりする経験ができたので、大学祭の活動は「アクティブ・ラーニング」にぴったりだったと思います。



「気遣い・気働きができる人になろうね、ということを授業の節々で学生に伝えていきます。クラスの中に参加できていない人がいると思ったら、巻き込むような雰囲気を作ってみる。疲れている人には、自然とお茶の一杯でも入れてあげたい。そういう気持ちを育てることは、女子大学ならではの教育の特徴であり、リーダーシップにもつながると思います」と本保先生。

松岡 大学祭のオープニングミサの時に、原田学長が「大学祭の実行委員はアクティブ・ラーニングとして最適の場だ」とおっしゃっていたのですが、まさにその通りだったんですね。

リーダーに必要な洞察力が 育つ「リベラル・アーツ」

松岡 先生は、副学長を務めることについてどのように感じていらっしゃいますか？

本保 二人と同じで、自分の意見を通すのではなく、様々な意見を集約したり、意見を促して多角的な意見を引き出したりする役割だと思っています。リーダーという部分があるとすれば、一つひとつ起こる事柄について自分の意見や考えをしっかりと持ち、「こそぞ！」という時は必ず発言する。そういうスタンスを心がけています。

住江 自分の意見や考えをしっかりと持つことが大切なのですね。

本保 その上で、最終的に深い思慮に基づいた正しい判断をすることが大事になります。本学が教育の柱とする「リベラル・アーツ」は「教養」と訳されることもありますが、社会で生きていくために必要とされる大きな要素を含んだ言葉です。幅広い知識や考え方を学び、そして専門的な知識も身につけた上で、総

合的な判断をして正しい選択につなげていく。リーダーに必要な洞察力や推察力に結びつけることのできる学び方が、本学ならできると思います。



正しく判断できることが大事と本保先生。

松岡 先生の話聞いて、決断力や謙虚さを取り入れていきたいと感じました。リーダーだからといって気負ったりせず、自分らしくやっていきたいです。

住江 今回の経験を活かして、来年も責任感を持って一つひとつのことを全力でやっていきたいと思いました。

本保 女子大学ということで率先して企画・運営に携わるだけでなく、力仕事であっても全部自分たちでしなければならぬ中で、自然にいろいろな能力が身につけていくと思います。また、そうした力が評価されることでリーダーに推薦されることもあるでしょう。女子大学でのリーダーシップの体験やリベラル・アーツ教育が、様々なかたちや場面で活かされていくことを期待しています。

ノートルダム清心女子大学 70年の歴史

本学は、2019年12月に創立70周年を迎えました。1949年に、岡山県で最初の私立の女子大学として認可を受けました。それ以前も、明治時代から岡山の地で女子教育に携わってきました。今では2学部6学科を有し、2万7000人以上の卒業生を輩出しています。これからもリベラル・アーツ・カレッジとして真に自立した女性を育て、社会に、そして世界に開かれた大学を目指します。

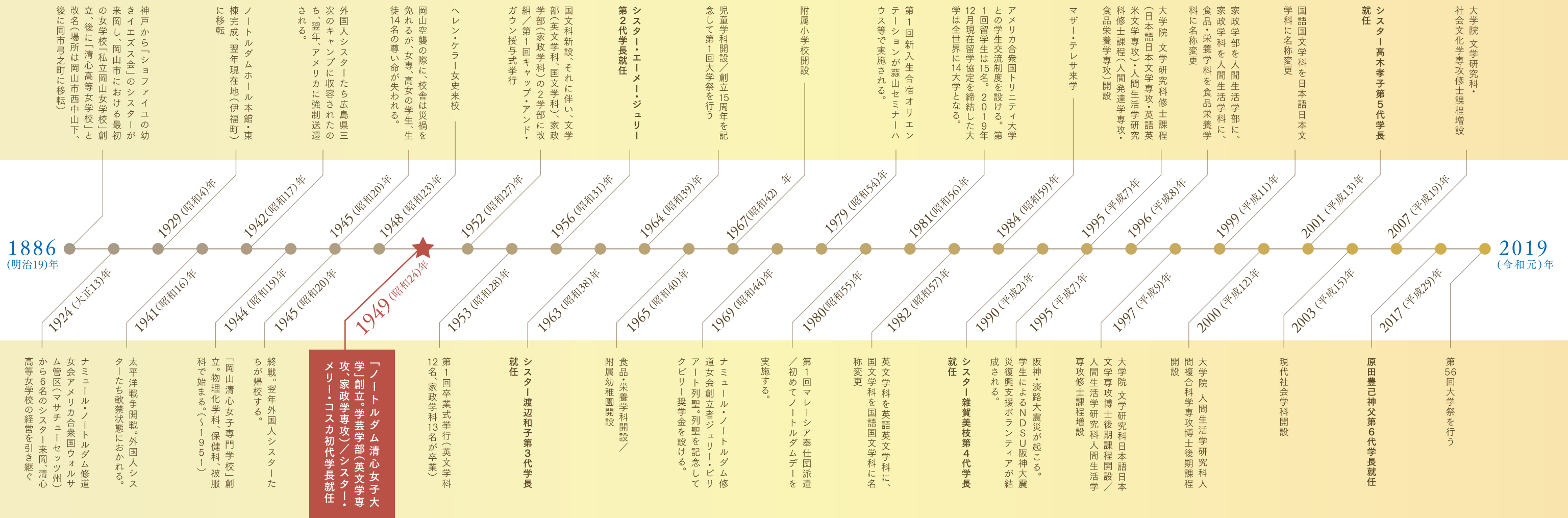
pick up



第56回大学祭を行う

2019

第56回大学祭にて、広報室アーカイブ・学生広報スタッフ SPARKLEが企画した大学創立70周年記念企画「Link わたしたちがつなぐもの」特別企画展「大学祭から見るわたしたちの清心」を開催しました。昭和-平成-令和をかけた第1回から第56回までの、時代を反映した大学祭パンフレットを展示し、大学祭の歩みでたどるわたしたちの清心の伝統とは何かを考えました。



pick up



初代学長就任 1949
初代学長シスター・メリー・コスカ(右)
2代学長シスター・エーメー・ジュリー(左)

pick up

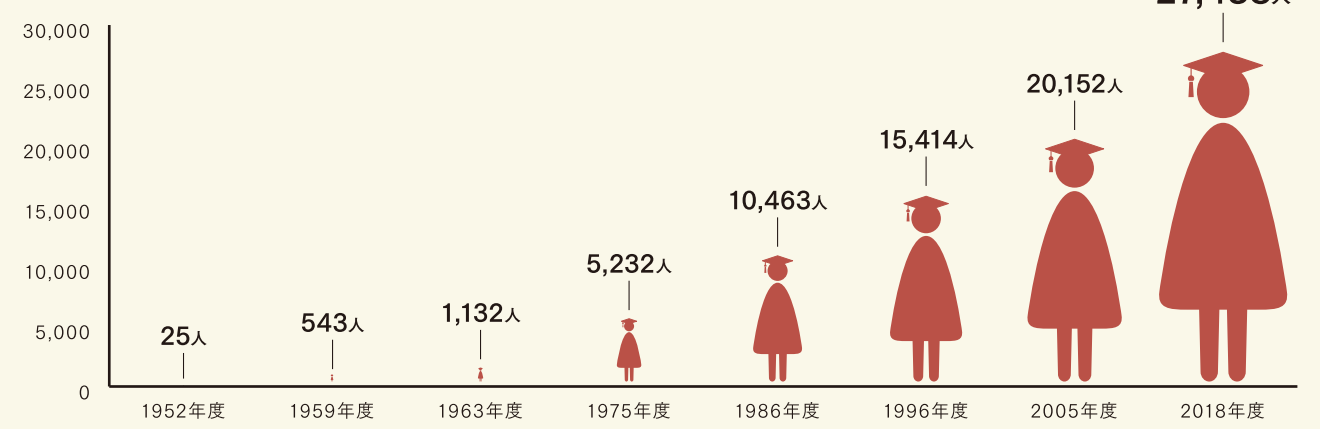


第1回大学祭を行う

1964

第1回大学祭のテーマは、「伝統を踏まえて明日への躍進」(1964年12月開催)でした。家政学科生の料理創作展など各学科による学生の研究活動の発表や各クラブの展示、講演会、英語弁論大会等が催されました。また、第2バチカン公会議をテーマとしたシンポジウムやキリシタン展など本学の特色ある取り組みが学内外に公表されました。

●ノートルダム清心女子大学卒業生累計



第56回
大学祭

Link

～つながるオモイ
つなげるジダイ～

11月3～4日に、第56回大学祭「Link ～つながるオモイ つなげるジダイ～」が開催されました。大学祭テーマである「Link ～つながるオモイ つなげるジダイ～」には平成から令和に時代は変わったが、平成からの想いは令和の時代にも繋げていくことが大切であるという気持ちが込められています。大学祭当日は、2日間で約3,400名もの来場者がありました。大学祭実行委員会をはじめ学生皆で作上げた大学祭の様子をご覧ください。

大学祭オープニングミサ 大学祭開催の無事を願って

Link ～つながるオモイ つなげるジダイ～



取材
1

豚肉の紅茶煮丼 (高粱紅茶プロジェクト)

現代社会学科と食品栄養学科の学生が主体となって活動している高粱紅茶プロジェクトからは、豚肉の紅茶煮丼。ほかほかのご飯の上に、紅茶で煮た豚肉、ゆで卵、ネギ、紅茶のジュレがのっていました。お客様からは、美味しいと高評価でした。学生たちが手作りした紅茶も付いていました。



取材
2

本の世界のクリスマス

～あわてんぼうのサンタからの贈り物～(大学附属図書館)

今年の特別公開、テーマは「クリスマス」。初の取り組みとして、児童学科の学生による絵本の読み聞かせや、司書課程履修者による展示がありました。クリスマスに関する資料の展示や飾り付けなど、いつもとは違った雰囲気の図書館でした。

【取材1②】 梶尾 みのり(人間生活学科4年)
稗田 実里(児童学科4年)



11/5 大学祭は無事、大成功

大学祭が終わって 挨拶をする 松岡誠子委員長



大学祭すべての工程が終了しました。実行委員会総勢105名が話し合いを重ね、今日まで頑張ってきました。おかげで、当日多くの来場者を迎え、日頃の成果を伝えることができ、みなさまに楽しんでいただくことができました。準備をはじめた半年前から終了まで、多大なお力添えをいただきました教職員の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。大変なこともありましたが、無事終了することができ嬉しく思います。そして、充実感、達成感を得ることができ実行委員一人ひとりの成長につながったと思います。みなさん、お疲れ様でした。



大学祭後の打合せ

大学祭実行委員会 顧問 長濱統彦先生 (人間生活学部教授) からの言葉



大学祭というのは一つの目的に向かって、皆で協力して、さらに色々な問題を解決していかなければならない。それが、社会人として非常に重要なことなんです。原田学長がオープニングミサで言われていたように、大学祭を運営するというのは、アクティブ・ラーニングとして非常に優秀な場で、これから就職活動をする学生はこれが役に立ってきます。今回の反省点を次に活かして、来年も清心らしい、盛り上がる大学祭を作っていけたらいいなと思います。

実行委員会委員の活躍



大学祭実行委員会 全体会議



大学祭実行委員・教職員最終打合せ会議

大学祭当日のイベント



大学祭の運営

準備から片づけまで、職員の力を借りつつも、学生が主体となって作り上げていく



INTERNATIONAL EXCHANGE

国際交流

- Seishin and the World -

留学 STUDY ABROAD EXPERIENCE 体験記

2019年8月9日～30日、22名の学生がビクトリア大学イングリッシュランゲージセンター(カナダ)での夏季海外英語研修に参加しました。

また、2019年8月14日～17日、2名の学生が輔仁大学(台湾)での夏季短期留学プログラムに参加しました。

学生たちは、カナダではホームステイし、台湾では寮に滞在しながら語学力向上や多文化理解を深めました。

ビクトリアで過ごした 3週間

3週間ビクトリアで過ごした時間は、私の人生の中で一番楽しくて充実したものでした。その中でも、特に印象に残っているのがカルチャーナイトです。私たちは書道や日本のアイドルグループのダンスなどを披露し、日本の文化を紹介しました。参加した人たちが日本の文化に触れて笑顔を見せながら楽しんでいる様子や、ダンスを披露した時の会場の一体感は、今でも忘れられません。このアクティビティを通して、普段は全く異なる文化の中で暮らしていても、お互いの文化を尊重し合える関係を築くことができると実感し、本当に良い経験ができたと思います。この3週間で、自ら楽しもうと行動していたら自分も周りの環境も変わってどんなことでも意味を持ち、自ら学ぼうとしていたらそれに応えてくれる人は絶対について、どんなことでも自分次第で前に進めるということが学べました。

文学部英語英文学科 2年
瀬島 優



ホストファミリーとカルチャーナイトにて

最好的生活就在台湾!!

私は元々在住経験があったため、もう一度中国語を学び直したいという気持ち半分と、台湾の美味しいフルーツが食べたいという気持ち半分で臨んだ短期留学でしたが、予想以上に楽しく思い出深いものとなりました。午前中はすべて中国語で行われる授業で頭をフル回転させ、午後のプログラムでは、フィールドワークを中心に台湾文化を現地の学生と共に学び、とても充実した2週間となりました。何よりサポートしてくれた現地の学生はもちろん、日本各地から集まった学生たちとも友人となれたことが、今回の留学で得ることができたかけがえのないものです。国際交流は私たちが始めることができるのだと身をもって実感しました。



現地の学生との夕食

文学部日本語日文学科 3年
宗高 優美・文
文学部日本語日文学科 3年
笠原 奈那巳・写真



修了式を終えて

ASEACCU(東南・東アジアカトリック大学連盟)国際学生会議

8月19日(月)～23日(金)、韓国ソガン大学で、ASEACCU(The Association of Southeast and East Asian Catholic Colleges Universities)主催の国際学生会議が開催され、本学から英語英文学科の学生2名が派遣されました。

“Reconciliation and the Situation in the East Asian Region”というテーマのもと、韓国ソガン大学で5日間にわたり開催されました。英語での講義、各国の現状を踏まえたディスカッションやプレゼンテーション、DMZ(非武装中立地帯)見学など

のフィールドワークや親睦を深めるためのK-popダンスの練習・発表など、数多くの貴重な体験をしました。参加学生は「会議を通して学んだことを糧に、“Global Citizen”に近づくべく、より一層自らの勉学に力を入れていきたいです。」と意欲を語りました。



アジア諸国カトリック系大学間学生交流事業 第4回フランシスコ・ボランティアキャンプ2019 in 韓国

8月5日(月)～11日(日)、韓国の清州市にて「第4回フランシスコ・ボランティアキャンプ2019」が開催され、本学からは過去最多の9名の学生が参加しました。ボランティア活動を通してカトリック的な教育理念の理解を深め、アジア諸国のカトリック系大学間の国際交流を進めることを目的に開催されています。

今年は清州市のコットンネという重度障害者施設に赴きました。9名それぞれが韓国の学生と同じ部屋に寝泊りし、障害者の方のお世話・子どもたちとの交流・ホームレスの方々への食事の提供などの活動を

しました。日韓の関係が不安定な時期でしたが、温かく迎えられ、多くの参加者が深い愛を感じながら活動することができたことに感謝していました。



6月
—
June
Event

大学ブランド商品の開発に向けて ～高粱紅茶との取り組み～

本学独自のブランド商品開発のため、「百姓のわざ伝承グループ」(高粱市松原町、代表:藤田泉氏)と連携した取り組みを開始することになりました。これまで文学部現代社会学科二階堂裕子教授のゼミを中心に、耕作放棄地となっていた高粱紅茶の荒廃茶園の復活プロジェクトに数年前から関わっており、この連携をさらに発展させるため、学生が主体となってオリジナル紅茶をプロデュースする活動を始めました。

2019年6月15日(土)、高粱紅茶を加工・販売している「百姓のわざ伝承グループ」とともに大学独自ブランド商品の開発に向けた第2回目のイベントが行われました。本学からの参加者は、学生21名と教職員4名の総勢25名となりました。

内容は、全国各地の地紅茶による地域再生の取り組みについての講義の後、商品企画・開発に関するディスカッションを行い、その成果を発表しました。さらに、国内外の地紅茶の飲み比べを楽しみました。

「高粱紅茶」の魅力を社会に広く伝えるため、茶葉の管理・収穫・加工の補助、イベントなどでのPR活動、

大学祭等への出展などを予定しています。また、人間生活学部食品栄養学科の吉金ゼミも参加し、高粱紅茶の食品科学的特性の解明や食品衛生的検証などを行います。このように、今後は学科の枠を超えて連携を図り、全学で地域連携に取り組んでいきます。



7月
—
July
Event

岡山市「学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト」に5事業採択。 ジョイントグループ部門にも6名が参加。

岡山市主催の「2019年度学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト」に本学の学生が多く参加しています。

「学生イノベーションチャレンジ推進事業」とは、学生が、企業や地域、NPO等と協働して、若者ならではの柔軟なアイデアの提案・実践によって地域課題の解決や、大学で学んだスキルを活用した起業へのチャレンジ等に取り組む活動に対し、岡山市が補助金を交付して支援する事業です。

各大学内でグループを作って事業に取り組む「学生ソログループ部門」では、本学より応募の、5団体5事業がすべて採択されました。部門全体で13事業(県内7大学)が採択されています。

複数の大学の学生でグループを作って事業に取り組む「学生ジョイントグループ部門」には、現代社会学科より5名、人間生活学科より1名の学生が参加し、他大学の学生と一緒に事業に取り組んでいます。

今後、「学生ソログループ部門」の活動報告は各学科のブログで、「学生ジョイントグループ部門」の活動報告は地域連携のブログで行なっていく予定です。

学生ソログループ部門 団体名	事業名
清心・出石町活性化チーム(人間生活学科)	出石町 大人のまちづくりプロジェクト
ツボジョーワールド探検隊(日本語日本文学科)	岡山の人と自然に支えられた作家・坪田譲治の心を共有し、地域における各自の生きがいを見出す地域活性化事業
岡山市ふるさと納税応援隊(人間生活学科)	岡山市ふるさと納税活性化計画
岡山市バフェ部(人間生活学科)	「#フルーツバフェでもっと岡山市を魅力的な街へ」プロジェクト
「若者視点の岡山市観光地化」チーム(人間生活学科)	若者視点による岡山市観光地化とプロモーション活動の推進

6月
—
June
Event

卒業証書・学位記を災害等で 消失した同窓生への再交付



2018年7月に発生した西日本豪雨災害では、本学でも多くの学生が被災したことから、卒業生においても多くの方が被災していると推測され、もしそうであれば、今も困難な状況にある卒業生に対して、本学ができる援助をしたい、また本学は卒業生のみなさんと共にあるというメッセージを送りたいと考え、卒業証書・学位記の再交付を始めました。

2019年6月22日(土)にノートルダムホール会議室において、卒業証書・学位記再交付式を行いました。これは本学卒業生である後藤瞭歩さん(現代社会学科卒業)が、本学教員に学位記消失について話したことがきっかけとなり、卒業証書・学位記の再交付を始めることになったものです。

学長から再発行された卒業証書・学位記が手渡され、「応援してくれている人、心配してくれている人が大勢いるという事を忘れてください。何ができるかわからないけれども一緒に考えていきたいと思います」とエールが送られました。受け取った後藤さんは「この度は再交付していただきありがとうございます。被災し

て色々流されて、大学で頑張った証も失ったのですが、今回再発行していただけて嬉しいです。これから一つひとつ取り戻していきたいです」と話しました。



再交付の受付 学務部教務係 学位記再交付係(TEL&FAX:086-255-5583)までお問い合わせください。

7月
—
July
Event

人間生活学科社会福祉士課程・真備で様々な地域支援を行う「ぶどうの家BRANCH」共催 夏休み宿題大作戦!! —学生がボランティアで真備の子どもたちに協力—

この取り組みは昨年度の本学の西日本豪雨災害支援プロジェクトチームの活動がきっかけとなり始まったものです。地域の保護者の方からの声もあり、子どもたちが勉強しつつ夏休みの楽しい思い出をつくること、さらに教育・福祉・心理を学ぶ大学生との活動を通じた触れ合いの中で、子どもたちが安心できる居場所づくりを目指すことを目的に企画されました。

7月14日(日)～8月25日(日)の間の、全7日間の日程で開催され、地域の小学生たち25名程がレクリエーションやワークショップで交流を行いました。

本学からは毎回メンバーは異なるものの7、8名の人間生活学科の学生がボランティアとして参加し、他大学の参加者もありました。

担当する人間生活学科 濱崎絵梨講師によると、イベントを学生自ら企画することや、子どもたちや地域の方々との交流を通して、学生にとってよい経験、大きな成長の機会となっているとのこと。真備ぶどうの家の高橋さんは、「高校生や中学生と小学生が触れ合う機会はあるが、普段、大学生と小学生が関わりあうことがあまり無いと思うので、お姉さんやお兄さんと

話せるよい機会になっているのでは」とお話しになっていました。

参加した学生は、「他大学の学生との交流や、小学生との触れ合い、工作の補助など、普段できない経験ができることが魅力」とのこと。9月以降もボランティアとして関わっていきたくて語っていました。



第3回

Interview
with
PROFESSOR
by SPARKLE

ノートルダム清心女子大学の個性豊かで楽しい先生や、
おもしろい研究活動などを、学生広報スタッフ「SPARKLE」が
紹介します。

05



家族社会学・ジェンダー研究を専門とし、2019年度から文学部長も務めている山下先生に、現代を生きる本学学生に向けてのメッセージを伺いました。

文学部 現代社会学科
山下 美紀 教授

枠組みにとらわれない

清心の学生は、共学で見られるような、女子学生だから、男子学生だから、守る、守られるといった枠組みにとらわれず、今後社会に出てからどう人生を生きていくのかを一人ひとりがしっかりと自覚を持って考えられているように感じます。また、目の前で起きていることだけでなく、目には見えにくいところにも心配りができる学生が多いのも誇りに思っています。

現代社会学科長だったときは学科の学生全員を覚えることを目標としていました。しかし、文学部長になってからは文学部の学生一人ひとりにどうしたら目を向けられるか、関わり方を模索しているところです。

家族は生き物!?

大学時代に、高校までの学びとは違う自由な環境で、ある問題に対してどう考えアプローチできるのか、当たり前とは一体何なのかを追求するうちに、家族という現象の面白さや不思議さに気づかされました。

1980年代頃は、「家族の多様化」論が登場し、家族研究が盛んになっていった時期にあたります。男女雇用機会均等法ができて女性が働きだしてから、結婚しても子どもを持たなかったり、共働きをしたり、熟年離婚という言葉も生まれ、様々な形態の家族が現れました。固定的な性別役割分業観や同性婚・LGBTなど、完全に解決できていない問題もたくさんあります。私は、家族は生き物のようだと思っています。絶対はなく、価値観は刻々と変化しているものだからです。

清心の学びのなかでこそ伝えられること

今後社会で生きていく上で、想像力を持つことが大事です。そして、ただ「考えた」だけで立ち止まらずに、他者と関わりながら行動していくことが重要です。また、今の女性の弱いところは、「責任をとる」という部分だと思います。清心は女子大学でありキリスト教の学校です。まず男性には頼りません。加えて清心では、「真の自由人の育成」の理念があります。それは何でもやっていたいわけではなく、自由には責任を伴います。清心は自己を認識し、責任感を持つ学生が育つ環境だと考えています。

[インタビュー]

現代社会学科 2年 山本 美有
英語英文学科 1年 岡部 夢花

06



生物多様性・細菌学・応用微生物学などを専門としている長濱先生に、この道に進まれたきっかけを伺いました。7月豪雨災害の資料レスキューに協力された話もお聞きしました。

人間生活学部 食品栄養学科
長濱 統彦 教授

平和に好きなことをしたい

大学4年生のとき、研究室選びのじゃんけんに負け、応用微生物学研究室に入ったことが今の専門のきっかけです。卒業後は14年間他の研究所でライバルたちと競い、深海に生息するカビや酵母の研究をしていました。けれども、研究内容が食品に関係が深かったことや、もともと人に教えることが好きだったことから、大学で食品関係の先生をするようになりました。

私は、人がしていない研究が好きです。注目されていない微生物や10億年前の微生物、例えば自分の皮膚にしか住みついていない細菌がいたとして、ここでしか生息できない細菌かもしれないと思うと愛しくなっていくくくしませんか。

最近、人が宇宙に行くことで地球上の微生物を持ち込む、あるいは宇宙由来の微生物が地球に来ることになり、本来の微生物の環境が変化するのはないかと心配しています。

汚染写真の洗浄ボランティア 未来の研究者へこんなところにも微生物が!

2018年の7月豪雨災害のときに、写真が流され汚染されました。本学の学生と協力し、どうして写真が汚染されるのか、汚染を抑えるためにはどうすると良いのかについて研究を行なった結果、汚染は、印画紙に含まれるゼラチンを分解する酵素に関係があることなどがわかり、本学学生が学会発表で形に残しました。研究には時間がかかりますが、形に残すことによって、同じ研究をする人が後世に継いでもらい、いずれ世の中の役に立つ成果が出ると良いです。

自分らしく

世の中の多くの事物が、100パーセント正しいということはほぼ無いです。何でも信じるのではなく、もしかしたら違うかもしれないという気持ちを常に持ってください。自分が進む道を、周りから反対されても、自分の資質を見極めて、自分を信じて選択することが大切です。学生には好きなことや、やりたいことを後悔しないように日々を過ごしてほしいです。

[インタビュー]

児童学科 4年 稗田 実里
人間生活学部 2年 上野 美紀

課外活動



2019年度スポーツデーを開催

10月19日(土)に、1年生がスポーツを通して友好を深めるスポーツデーを開催しました。2年生の体育祭実行委員会が中心になって企画運営し、各学科が一丸となって競技に取り組む毎年恒例の体育行事です。

競技はバスケットボール、ドッジボール、バレーボール、長縄、玉入れ、騎馬戦、障害物競走、そしてリレーの全8種目を行いました。

総合優勝は3年連続の英語英文学科、準優勝は同点で人間生活学科・児童学科でした。

詳細はブログを
ご覧ください

試合前に学科全員で円陣を組み、気合を入れる姿、自分たちの学科の試合が終わっても他学科の試合を応援する姿など、この行事の醍醐味である“学科内での一致団結”、そして“学科を超えた選手同士の関わり”を多々垣間見ることができました。

来年度は、現1年生委員が中心となり、新入生のスポーツデーの企画運営を行います。

2019年度体育祭実行委員会
委員長 木村 晃子
(英語英文学科 2年)

学外活動

日本語演劇部
岡山商科大学と合同公演

本学日本語演劇部は、毎年、定期公演を行っていましたが、2019年度から岡山商科大学演劇部と合同公演を開催するという新しい取り組みを始めました。5月には、岡山県天神山文化プラザで「パラダイムチェンジ」を公演し、7月には、本学と岡山商科大学の2会場で夏季合同公演2019「ヒーローたちの出発」「犯人は山田」の2つの劇を公演しました。さらに、大学祭では11月3日(日)に「アコニツム」を公演し多くの方々に観ていただくことができました。

課外活動

弓道部
2019年目覚ましい活躍

本学弓道部は、2019年度において以下の大会において活躍しました。

- ・片岡瑞稀選手(現代社会学科2年)
第52回中国学生弓道競技大会
女子個人戦第2位
- ・中村妃那選手(人間生活学部2年)
第63回西日本学生弓道選手権大会
女子個人戦ベスト8
- ・片岡瑞稀選手(現代社会学科2年)、
中村妃那選手(人間生活学部2年)
全日本学生弓道選手権大会
個人予選決勝進出決定

生涯学習センター 清心フェリーチェ特別講演 平成最後の歌会始の儀 2019入選者2名による対談を開催

2019年1月16日、皇居で執り行われた新春恒例の「歌会始の儀」に選出された本学文学部国文学科23期秋山美恵子氏、文学部国語国文学科31期重藤洋子氏(いずれも現日本語日本文学科)をお招きし、8月10日ヨゼフホールにて、清心フェリーチェ特別講演会を開催しました。

今回の歌会始の儀は平成最後となり、国内外から一般応募の選考対象21,971首が寄せられました。そのうち、皇居に招かれた一般入選者10名のうち、2名が本学卒業生のお二人でした。

この講演会には、同窓生の方をはじめ、地域の方・学生約300名がご参加くださいました。本学日本語日本文学科の東城敏毅教授(古典文学専門)がコーディネーターをつとめ、同窓生であるお二人から、歌に込められた思い、母校への思い、そして次世代への思いを語っていただきました。



左から 東城教授 秋山氏 重藤氏

秋山美恵子氏入選歌

光てふ 名を持つ男の 人生を
千年のちの 生徒に語る

古文はドラマティックな物語が多いが、その奥には人間が色々なことを感じ、考え、喜び、苦しむ表現がある。古文の授業中、それを生徒が読み、掴むことができた時、たとえそれが虚構の人物である光源氏であっても、1000年たった今日の前に、すぐそこに立っているように生徒が感じてくれる。生徒たちは感動し、表情がぱっと明るくなる。私も共に感動し、その感動を共有する時間はとても輝いている瞬間であり、とても懐かしい。

共に国語科教員として教職に就かれているお二人は、生徒への想いを歌に詠まれています。お話を聞いていると、生徒たちに明るく未来を望むこれらの歌が作られた背景には、お二人が過ごされた本学の教育が深く関わっているように感じられました。

講演の中で、「言葉」とは、心と連動しており、言葉を磨けば心も磨かれ、言葉を作っていく中で、自分が人間として成長していくとおっしゃっています。

本学で出会った多くの先生方から、一人ひとりを大切にされ、自分の存在を代わりがたいものとして認められる教育の中で過ごされました。そこから育まれたものがお二人の教員としての生徒との関わりや和歌の中に生かされていると感じられる講演会となりました。

重藤洋子氏入選歌

無言になり 原爆資料館を出できた
生徒を夏の 光に放つ

生徒たちと平和学習に広島へ行った。そこで生徒たちが目にしたのは、自分達と同じ年頃の子どもの自身の死や、その家族の姿だった。彼らは真剣に生と死について考え、様々な思いを抱えながら資料館を出て、慰霊碑へと歩き出す。8月の暑い日差しの中。私は生徒を送り出し、列の一番後ろを付いて行った。どうかこの平和が、今の幸せが、ずっと続いてくれたら、続かないといけない、その思いが湧き上がってきた。

最後に、本学同窓会横溝洋子会長から、お二人の入選を大変光栄に思いますとのお言葉と共に、花束贈呈がありました。



2019年度第1回 外部評価委員会を開催



詳細はブログをご覧ください

2019年8月26日(月)15時から本学において、第1回外部評価委員会を開催しました。

福島真司委員長の議事進行により、2018年度自己点検・評価結果及び中長期計画について、意見交換が行われました。

本学は2009年度及び2016年度に公益財団法人大学基準協会による大学評価を受け、「大学基準に適合している」との認定を得ています。

2016年度の大学評価では、自己点検・自己評価委員会の実質的な活動等について指摘されたため、2017年度から指摘事項を再検証し、2018年度に改善・向上策について検討を重ね、2019年度から改善に取り組んでいます。

今回の外部評価委員会では、10の大学基準及び本学のビジョン2039に基づく中長期計画について、各委員から数多くのご意見や課題のご指摘をいただき、今後に向けて大きな指針となりました。

本学の外部評価委員会委員(開催日時点の職名)
委員長 大正大学学長補佐 地域創生学部教授 福島 真司 氏
委員 株式会社リクルートマーケティングパートナーズ/リクルート進学総研 所長 林 浩 氏
リクルート「カレッジマネジメント」編集長 小林 浩 氏
山陽新聞社 NIB・NIE部長 瀬尾 由紀子 氏
九州大学 人間環境学研究院 准教授 木村 拓也 氏
中国銀行 常務取締役 谷口 晋一 氏
学校法人 演名学院 常務理事・事務局長 関西国際大学 事務局長 横田 利久 氏



2019年度コンプライアンス 研修会を実施



詳細はブログをご覧ください

2019年9月19日(木)13時15分から2019年度コンプライアンス研修会を実施し、全教員と公的研究費に携わっている職員が出席し熱心に受講しました。

「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」では、研究機関に対し、競争的資金等の運営・管理に関わる全ての構成員が自らのどのような行為が不正に当たるのかを適切に理解するため、コンプライアンス教育を実施し、その受講状況および理解度を把握するよう義務づけています。

今年度は、講師に EY 新日本有限責任監査法人から公認会計士 赤池 友広氏をお招きし、「公的研究費の適切な使用に関するコンプライアンス研修会」と題した講演をしていただきました。研究費の管理強化の流れ及びこれまでの不正使用の実例などを基に、わかりやすく解説していただきました。

本学ではこれまでにコンプライアンスに抵触するような事例はありません。これからよりよい研究成果を生み出し、学生のみならず、地域社会、日本、世界へ還元できるよう、研究環境整備に努めます。

大学ホームページ リニューアル

2019年6月10日に、大学ホームページをリニューアルしました。今回のリニューアルでは、ホームページ全体をスマートフォン対応にしたことにより快適に閲覧できるようになりました。日々の出来事や学科の特色を伝えるブログはそのまま受け継がれ、在学生の生き生きとした姿や、学科での様子、大学行事の様子などをお伝えしていきます。さらに今後は、卒業生向けの情報も充実させていく予定です。

ホームページや学報が、在学生、保護者、同窓生とのコミュニケーションを深める架け橋となれば幸いです。 広報室



編集後記

今号は、学生・卒業生の活躍に焦点をあてた構成となりました。制作過程で、本学卒業生、教員、学生の話聞く機会に恵まれました。その中で共通していたことは、あらゆる視点から物事をみることが必要であるということでした。全ての事象は、一つの面で出来ているわけではありません。あらゆる立場にたつて、あらゆる視点から物事を考える事のできる人になる。それが本学の目指す教育の一つなのだと改めて実感しました。

制作について、在学生、卒業生の皆様に快く協力いただきましたこと感謝いたします。

(広報室)

聖書の言葉

だれも、新しいぶどう酒を
古い革袋に入れたりはいししない。
そんなことをすれば、
ぶどう酒は革袋を破り、
ぶどう酒も革袋もだめになる。
新しいぶどう酒は、
新しい革袋に入れるものだ。

—— マルコによる福音書2章22節

盛んに発酵している新酒を、硬く乾いた古い革袋に入れると、袋が膨張して破れ、ぶどう酒も革袋も無駄になってしまうので、新酒にはそれにあつた弾力のある新しい革袋が必要だとイエスは語ります。

今年で本学は創立70周年を迎えました。本学は創立以来、変わらない建学の精神を継承しつつ、毎年入ってくる若い命の成長を見守り、促すために、硬直した古い革袋であることなく、時のしるしを読みとり、地域社会の期待に応える弾力のある新しい革袋であることを求め、発展してきました。

今後も本学は、一人ひとりをかけがえない命として大切にするキリスト教精神の伝統を受け継ぎながら、激動する現代社会にあつて若い命が成熟した人格に成長できる、魅力ある全人教育の場であり続けることを希求していきます。

副学長 山根道公

Mini Serialization

Seishin Archives

今に続く清心の歴史をご紹介します

大学創立記念日 12月8日

大学創立記念日は12月8日です。大学創立当初は、11月を創立記念日としていましたが、1956年以降は現在の12月8日を記念日としてきました。「ノートルダムを意味するマリアの祝日でもあり、また初代学長シスター・メリー・コスカの修道名の祝日にもちなみ、創立記念日をこの日とするのがふさわしく、二重の深い意味を持っています」と当時発行された学生新聞『N.D.S.C. TIMES』（1956年11月22日発行）に記されています。そこには以下のようにも書かれていました。

「現在の大学には、4つの学年があり、その1期生が無事に卒業することで、最初の1周期が無事完了した。ここでちょっと立ち止まり、大学の創立と発展の歩みを示す年月を振り返ってみるのもいいかもしれない。」



ノートルダムの風景

ノートルダム清心女子大学 正門

ノートルダム清心女子大学の南東に位置する正門は、清心高等女学校の頃からその様を変えてはいません。正門をくぐると大学本館への扉があります。扉は全面ガラス戸で、光をおおきく取り込み、それは、優しく誰でもいつでも人を迎え入れるかのような佇まいです。

1949年の大学創立以来70年間、この大学の正門をくぐり抜けて、多くのノートルダム清心女子大学生が入学・卒業していきました。これからも、新入生・同窓生を温かく迎え入れることでしょう。



当時の正門



現在の正門



Cover : 文学部 日本語日本文学科 2年 藤原 瑠音(右)
人間生活学部 児童学科 2年 向井 菜々帆(左)

硬式テニス部所属。2018年9月に行われた中国四国学生テニス選手権大会において、女子シングルスでベスト8入り。女子ダブルス(向井・藤原ペア)で優勝。同年全日本学生テニス選手権大会出場。2019年度も引き続き全日本学生テニス選手権大会出場を果たした。

ノートルダム清心女子大学 BULLETIN Vol.203

発行 ノートルダム清心女子大学 広報室

2019年12月8日

〒700-8516 岡山市北区伊福町2-16-9

TEL(086)252-3107 <https://www.ndsu.ac.jp/>